

え が い つ ふ み お
荏 開 津 典 生 (年齢 79 歳) (昭和 10 年 4 月 14 日生)

- (略歴) 昭和 34 年 東京大学農学部卒業
昭和 38 年 東京大学大学院中退
昭和 38 年 経済企画庁研究員
昭和 42 年 東京大学に出向 (農学部助手)
昭和 44 年 東京大学農学部助教授
昭和 45 年 農学博士 (東京大学) の学位を取得
昭和 60 年 東京大学農学部教授
平成 8 年 東京大学定年退職 (名誉教授)
平成 8 年 千葉経済大学教授
平成 14 年 千葉経済大学学長
平成 18 年 千葉経済大学退職 (名誉教授)

研究業績の題名

転換期の農業・食料問題及び政策形成に関する研究

業績紹介

荏開津典生氏は、計量手法による農業経済分析に際して、農業に特有な生物学的な技術的要因を組み入れた新たな生産関数の構築、及び統計データの解析などに重点を置いて、研究活動を進めてきた。それは、従来の計量経済手法による農業経済分析をより緻密化し、その実証性を高めることを目的としている。この点で、氏は日本の農業経済学における計量経済学の確立、発展に先導的な役割を果たされた。その研究成果を代表するのが、1985年に刊行された『日本農業の経済分析』である。ここでは、膨大なデータを精査し、生産関数の新たな組直しを通して、日本農業の主要分野の経済動向が体系的に分析、実証されている。本書は、計量経済手法による日本農業の経済分析の先駆的業績と学会で位置づけられ、その後の研究者の計量研究にとっての導きの書となっている。

氏は、計量分析手法による農業研究にとどまらず、さらに研究領域を広げられた。その一つは、食料経済学に関する研究である。この分野の研究の重要性にいち早く着目し、若手研究者を組織して研究活動を推進した。その成果は、1995年の『アグリビジネスの産業組織』の刊行に結実する。本書は、日本の食品関連産業のほぼ全業種を対象に、産業組織論に基づいた食品産業を中心とするアグリビジネスの構造、特質を解明したものである。新領域のフードシステム研究が日本で本格化する一つの契機をなし、日本の食料経済研究の基礎となっている。氏は、食料経済の研究深化にも大きく寄与している。

もう一つは、農業政策に関する研究である。80年代後半の早い段階からEUの農業政策への関心を深め、現地での実態調査にも依拠しつつ、EUの農業政策の細部にわたる日本への紹介に努められた。『農政の論理をたぐす』などの著書を通して、日本の農業政策に内在する諸問題に取り組む中で、今後の日本の農業政策にとってEUの農業政策が参考になると考え、EUの農業政策の調査・紹介を進められたのである。

このような、農業経済の広い分野にわたる深い見識に基づいて、氏は農政審議会など数多くの委員を委嘱され、その任を果たされた。中でも、食料・農業・農村基本問題の部会長として答申をとりまとめた。これを通して、食料・農業・農村基本法の制定にも尽力されたのである。

農業政策などに関わる社会貢献に加えて、学会及び教育界における貢献にも非常に大きなものがある。ここでは、その一々を列挙することはしない。ただ、学会及び教育界における氏の貢献は、農業経済分野における上記の研究成果、業績と一体のものであることを付言しておきたい。

(小澤健二選考委員記)

過去に受けた主な賞

昭和 60 年 NIRA 政策研究・東畑記念賞